２　令和５(2023)年度の実績

（１）目標の達成状況

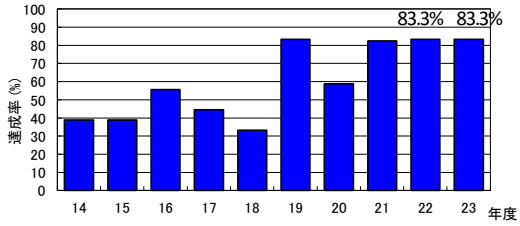
ア　大気環境の目標

●二酸化窒素の対策目標値（環境基準）下限値（0.04 ppm）の達成

大気環境の目標（二酸化窒素）

成果指標	策定時の値〔R2 年度〕	2022 年度（R4）実績	2023 年度（R5）実績	目標〔R12 年度〕
二酸化窒素の対策目標値（環境基準）下限値（0.04ppm）以下を達成した測定局の割合	58.8%	83.3%	83.3%	77.8%

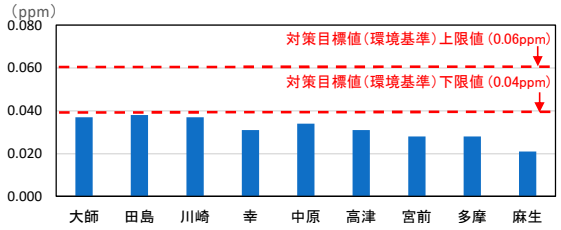
令和５（2023）年度は全 18 局中 15 局で対策目標値（環境基準）下限値(0.04 ppm)を達成（83.3%達成）しました。また、令和 12（2030）年度の目標（77.8%達成）を達成するなど、順調に推移しています。



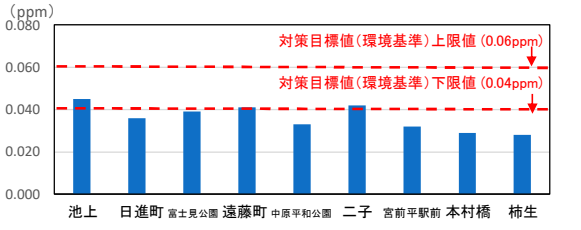
【二酸化窒素の対策目標値（環境基準）下限値達成率】

○二酸化窒素の推移

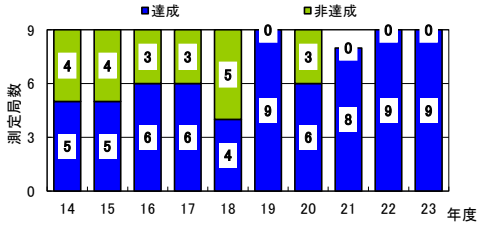
対策目標値（環境基準）下限値(0.04 ppm)の達成局数は一般局、自排局共に徐々に増加しています。また、二酸化窒素の日平均値の年間 98%値（年間の 1 日平均値の低い方から 98%に相当する値で環境基準を評価）も低下傾向です。



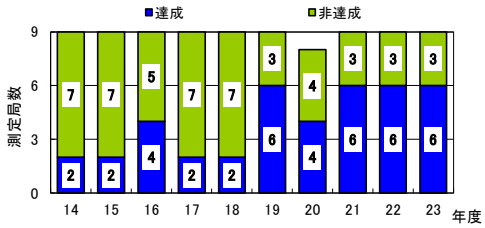
2023年度二酸化窒素濃度の対策目標値(環境基準)との比較（一般局）



2023年度二酸化窒素濃度の対策目標値(環境基準)との比較（自排局）

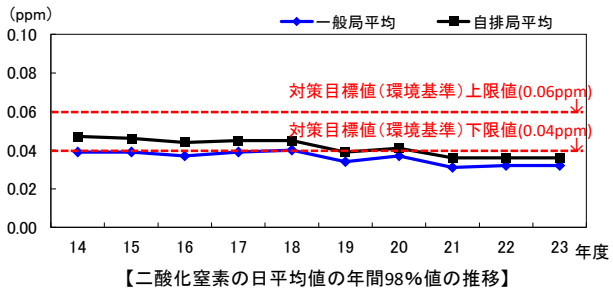


【二酸化窒素の対策目標値下限値達成状況：一般局※】



【二酸化窒素の対策目標値下限値達成状況：自排局※】

※測定装置の故障や測定局の移設等の影響で有効測定局数が異なる年度があります。



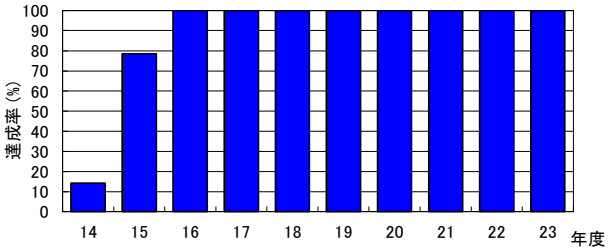
【二酸化窒素の日平均値の年間98%値の推移】

●PM2.5 の環境基準の達成維持

大気環境の目標（PM2.5）

成果指標	策定時の値〔R2 年度〕	2022 年度（R4）実績	2023 年度（R5）実績	目標〔R12 年度〕
PM2.5 の環境基準を達成した測定局の割合	100%	100%	100%	100%

令和５（2023）年度は、全 17 局で環境基準を達成し、令和 12（2030）年度の目標（100%達成維持）に向けて順調に推移しています。



【PM2.5の環境基準達成率】

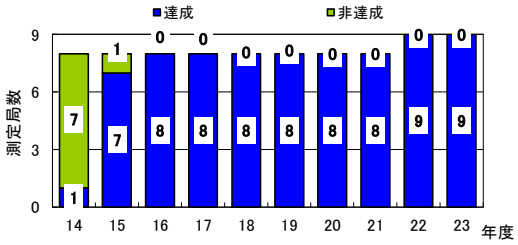
令和５年度の測定結果と評価

測定局		環境基準評価 年平均値	日平均値の年間98パーセンタイル値※1	評価※2
		μg/m³	μg/m³	○×
一般環境大気測定局	大師	9.2	21.3	○
	田島	10.2	23.8	○
	川崎	9.2	22.4	○
	幸	7.8	18.3	○
	中原	7.7	17.8	○
	高津	8.1	19.0	○
	宮前	7.7	18.5	○
	多摩	7.5	17.5	○
	麻生	7.5	18.0	○
自動車排出ガス測定局	池上	9.3	21.0	○
	日進町	8.8	20.9	○
	富士見公園	8.6	21.4	○
	中原平和公園	7.8	18.0	○
	二子	8.6	20.2	○
	宮前平駅前	8.3	19.0	○
	本村橋	7.4	17.9	○
	柿生	7.8	19.7	○

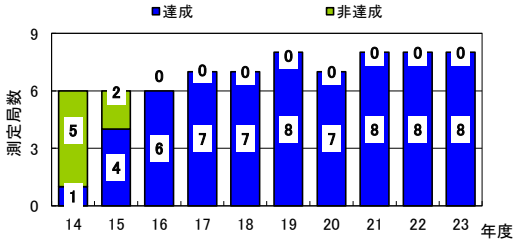
※１　日平均値の年間 98 パーセンタイル値：年間の１日平均値の低い方から 98%に相当する値
※２　年平均値及び日平均値の年間 98 パーセンタイル値の両方に適合した場合に○で表示

○PM2.5 の推移

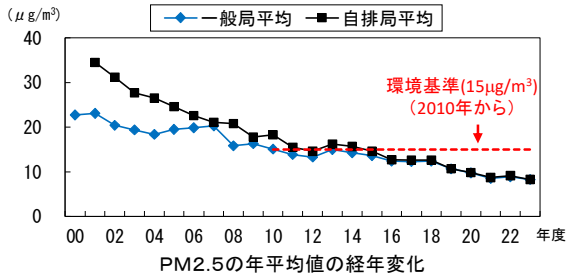
環境基準達成局数は一般局、自排局共に徐々に増加し、全ての測定局で８年連続で環境基準を達成しています。また、PM2.5 の年平均値及び日平均値の 98 パーセンタイル値も低下傾向です。



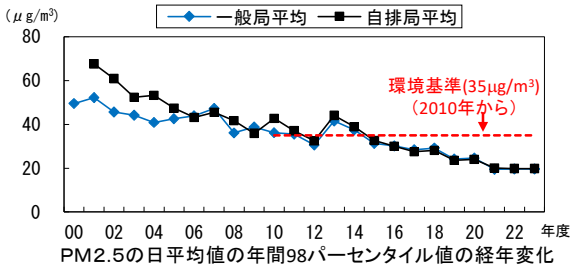
【PM2.5の環境基準達成状況：一般局※】



【PM2.5の環境基準達成状況：自排局】



PM2.5の年平均値の経年変化



PM2.5の日平均値の年間98パーセンタイル値の経年変化

※　令和4（2022）年１月に多摩測定局にPM2.5測定装置を新規設置したことにより、令和4（2022）年度から有効測定局数が１局増えています。

●光化学スモッグ注意報発令０日

大気環境の目標（光化学スモッグ）

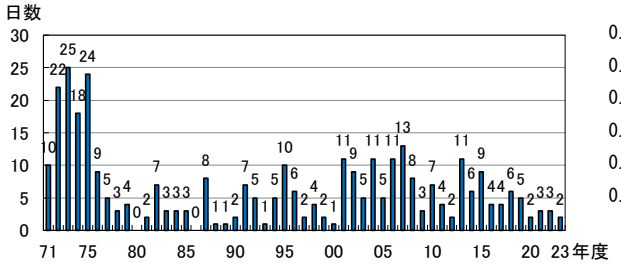
成果指標	策定時の値〔R2 年度〕	2022 年度（R4）実績	2023 年度（R5）実績	目標〔R12 年度〕
光化学スモッグ注意報の発令日数	2 日	3 日	2 日	0 日

光化学スモッグ注意報は、光化学オキシダントが高濃度になった際に発令されます。

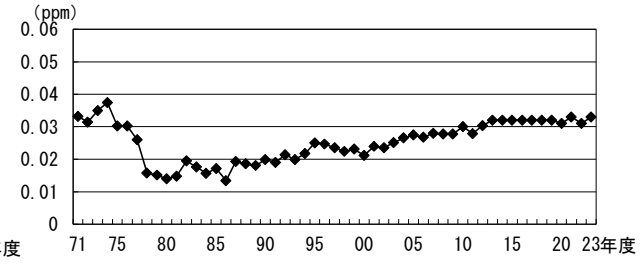
令和５（2023）年度の光化学スモッグ注意報の発令は２日であり、目標の０日を達成できませんでした。

○光化学オキシダントの推移

平成 13（2001）年度以降は年 10 日前後、平成 28（2016）年度以降は年５日前後で推移しています。また、光化学オキシダントの昼間の年平均値は 1980 年代後半から微増傾向であり、近年は横ばいで推移しています。



市内の光化学スモッグ注意報の発令日数の推移



光化学オキシダント濃度の昼間の年平均値の推移

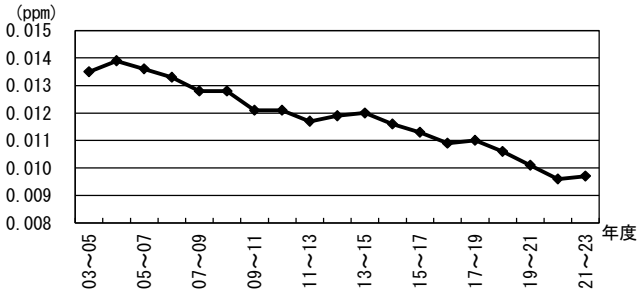
●光化学オキシダント高濃度の低減

大気環境の目標（光化学オキシダント高濃度の低減）

成果指標	策定時の値〔R2 年度〕	2022 年度（R4）実績	2023 年度（R5）実績	目標〔R12 年度〕
光化学オキシダント環境改善評価指標値※1	0.0106 ppm（2018～2020 年度平均値）	0.0096 ppm（2020～2022 年度平均値）	0.0097 ppm（2021～2023 年度平均値）	0.0103 ppm（2028～2030 年度平均値）

令和５（2023）年度の光化学オキシダント環境改善評価指標値※は 0.0097 ppm で、令和 12（2030）年度の目標(0.0103 ppm）を達成するなど、順調に推移しています。

※ 光化学スモッグ注意報が発令される対象期間である４月から 10 月までの日中の光化学オキシダント生成量に着目して設定
各年度の実績は、直近３年分の平均値として算出

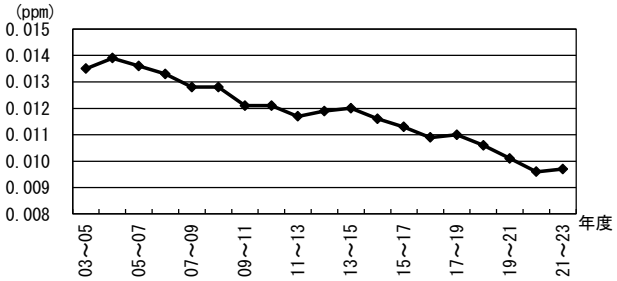


光化学オキシダント環境改善評価指標値（4～10月）の経年推移

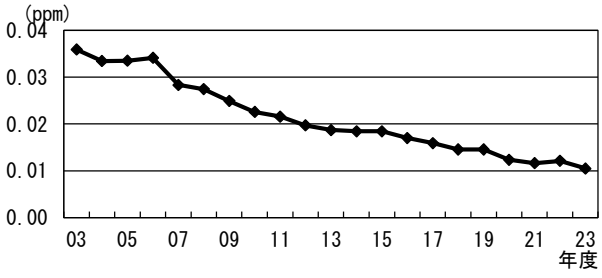
○光化学オキシダント環境改善評価指標値等の推移

光化学オキシダント環境改善評価指標値は、窒素酸化物と揮発性有機化合物（常時監視では非メタン炭化水素として測定）と同様に、低下傾向にあります。

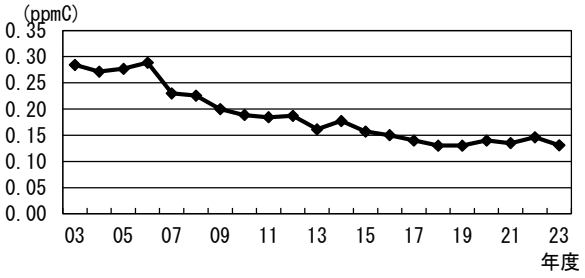
国の新指標は、近年減少もしくは横ばいの傾向で推移しています。



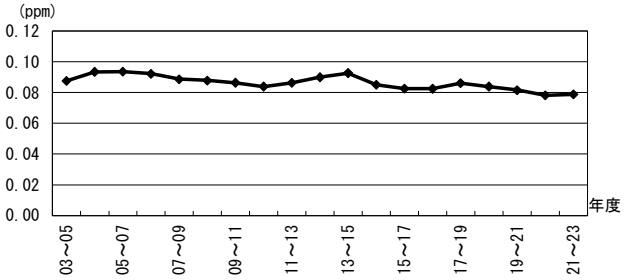
光化学オキシダント環境改善評価指標値（4～10月）の経年推移



窒素酸化物（一般局）の4～10月平均値の経年変化



非メタン炭化水素の4～10月平均値の経年変化



国の新指標（光化学オキシダント濃度8時間値の日最高値の年間99パーセンタイル値の3年平均値）の経年推移

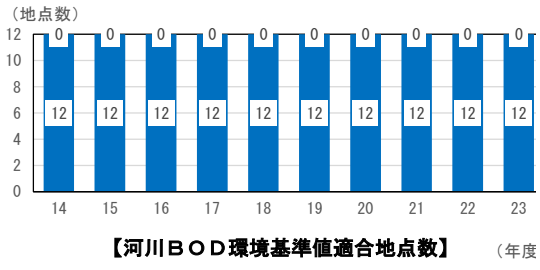
イ　水環境の目標

●河川の BOD 及び運河部の COD の環境基準値適合

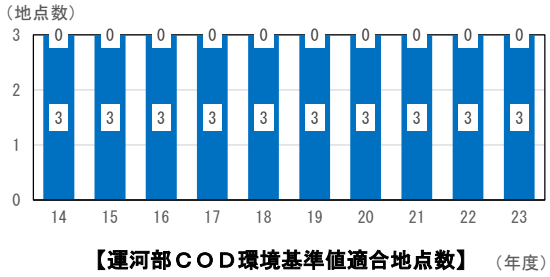
水環境の目標（BOD 及び COD）

成果指標	策定時の値〔R2 年度〕	2022 年度（R4）実績	2023 年度（R5）実績	目標〔R12 年度〕
河川の BOD 及び運河部の COD の環境基準値の適合地点の割合	100%	100%	100%	100%

令和５（2023）年度の河川の BOD について、12 地点全てで環境基準値に適合しました。また、運河部の COD についても３地点全てで環境基準値に適合しました。



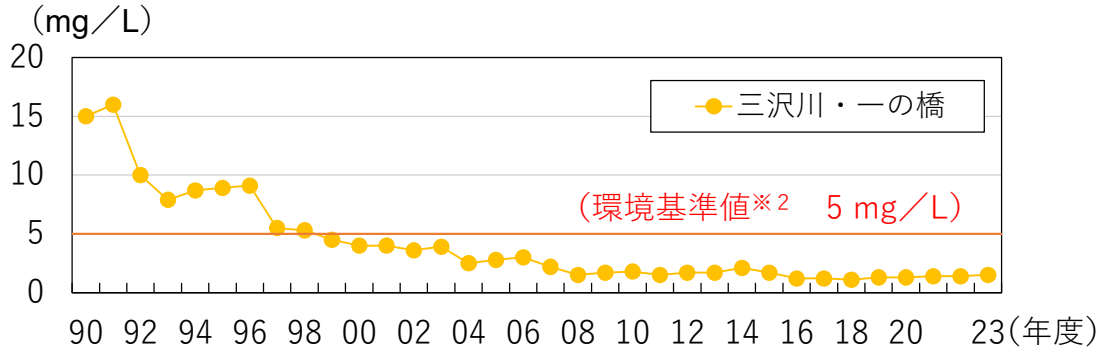
【河川ＢＯＤ環境基準値適合地点数】

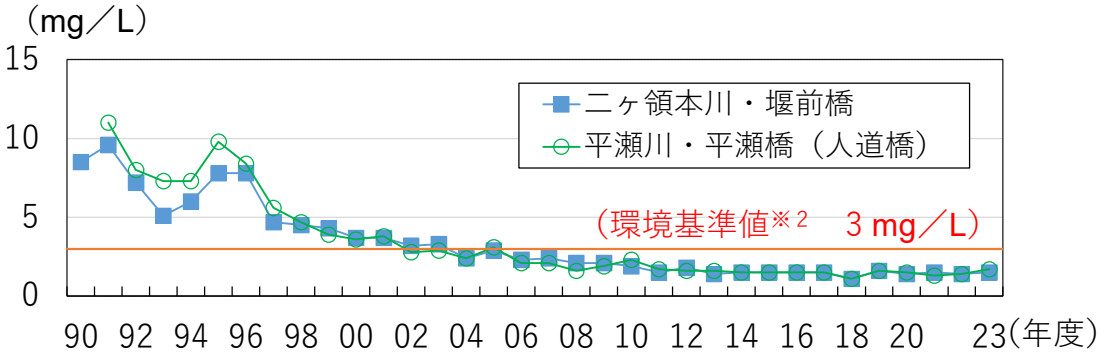


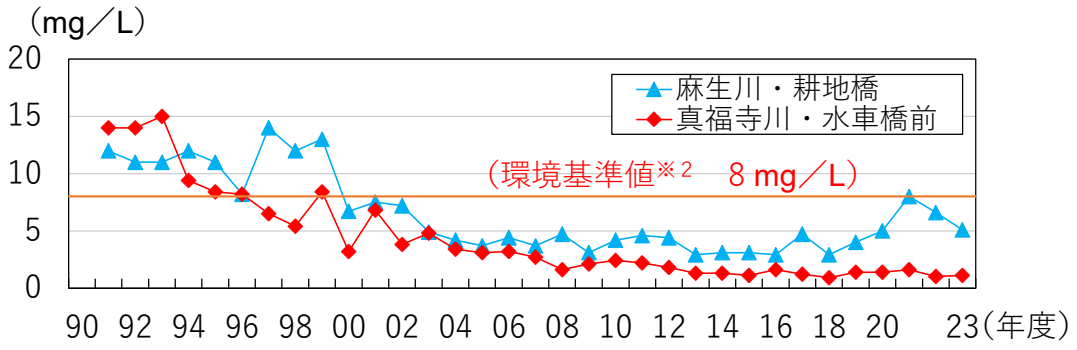
【運河部ＣＯＤ環境基準値適合地点数】

○河川の BOD の推移

主な河川の BOD（75%水質値※1）は、河川により若干の変動はあるもののほとんどが横ばいで推移しています。



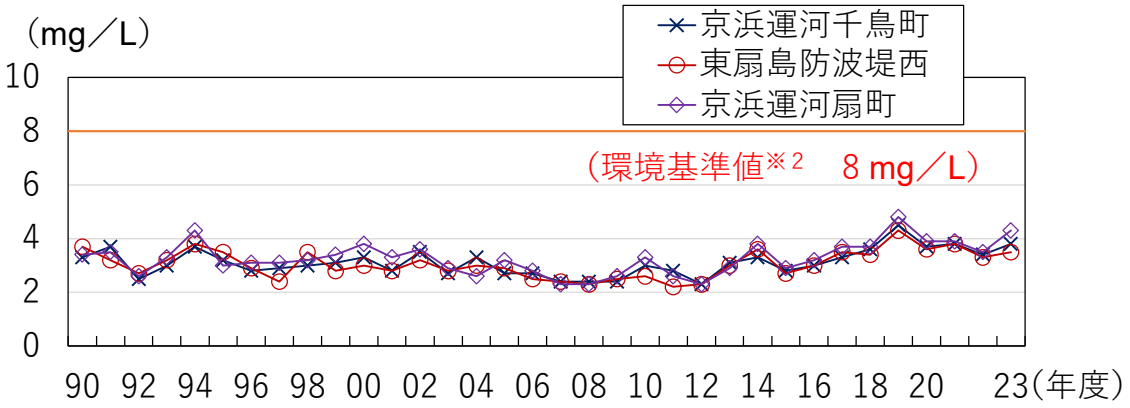




主な河川の BOD の推移（75%水質値）

○運河部の COD の推移

主な運河部の COD （75%水質値※1）は、横ばい又は増加する傾向が見られています。



運河部の COD の推移（75%水質値）

※１　年間の日間平均値の小さい方から 75%に相当する値

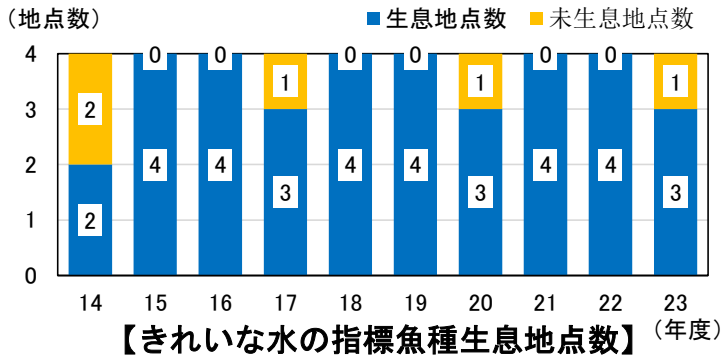
※２　BOD の環境基準値は、水域によって異なります。

●「きれいな水」の指標魚種の生息地点の増加

水環境の目標（「きれいな水」の指標魚種）

成果指標	策定時の値〔R2 年度〕	2022 年度（R4）実績	2023 年度（R5）実績	目標〔R12 年度〕
「きれいな水」の指標魚種の生息地点の割合	75%	100%	75%	100%

令和５（2023）年度は、４地点中３地点で「きれいな水」の指標魚種の生息を確認しました。



【きれいな水の指標魚種生息地点数】

（指標魚種）

2023 年度に確認したミナミメダカ

河川の水生生物調査結果（きれいな水の指標魚種の確認状況）

水系	番号	河川名	地点名	調査年度	確認した魚類の種名
多摩川水系	1	三沢川	下の橋	2022	コイ（飼育型）、ギンブナ、オイカワ、カワムツ、アブラハヤ、マルタ、ウグイ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ、スゴモロコ類、ドジョウ（中国大陸系統）、ヒガシシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、コクチバス、ヌマチチブ、カワヨシノボリ、スミウキゴリ、ウキゴリ、カムルチー
	2	五反田川	大道橋	2021	コイ（飼育型）、コイ（改良品種型）、オイカワ、アブラハヤ、ドジョウ、ナマズ、ニジマス
	3	二ヶ領本川	ひみず橋	2021	コイ、フナ属の一種、オイカワ、モツゴ、ニゴイ、ドジョウ、ミナミメダカ、カワヨシノボリ
	4	二ヶ領用水宿河原線	東名高速下	2021	オイカワ、ヌマムツ、マルタ、モツゴ、カマツカ、ドジョウ
	5	平瀬川	正安橋	2022	コイ（飼育型）、オイカワ、マルタ、ウグイ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ（中国大陸系統）、ドジョウ属の一種、ホトケドジョウ、アユ、ヌマチチブ、スミウキゴリ、ウキゴリ
	6	二ヶ領用水円筒分水下流	今井上橋	2021	コイ（飼育型）、ギンブナ、フナ属の一種、オイカワ、カマツカ、ミナミメダカ、メダカ類
鶴見川水系	7	片平川	片平橋下	2023	ドジョウ（中国大陸系統）、ドジョウ属の一種、ホトケドジョウ、ミナミメダカ、メダカ（飼育品種）、カワヨシノボリ、ヨシノボリ属の一種
	8	麻生川	耕地橋	2023	コイ（飼育型）、コイ（改良品種型）、オイカワ、カマツカ、ドジョウ（中国大陸系統）、ナマズ、ミナミメダカ、カワヨシノボリ
	9	真福寺川	水車橋前	2023	オイカワ、ウグイ属の一種、ドジョウ（中国大陸系統）、ドジョウ属の一種、ミナミメダカ、メダカ（飼育品種）、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ類
	10	有馬川	住吉橋	2023	ヌマチチブ、トウヨシノボリ類
	11	矢上川	日吉橋	2022	コイ（飼育型）、オイカワ、ドジョウ、ドジョウ（中国大陸系統）、ホトケドジョウ、ナマズ、カダヤシ、メダカ（飼育品種）、ヌマチチブ、ゴクラクハゼ、ウキゴリ
	12	渋川	八幡橋	2022	コイ（飼育型）、ギンブナ、フナ属の一種、カマツカ、カマツカ類、ドジョウ（中国大陸系統）、ミナミメダカ、ヌマチチブ、トウヨシノボリ類、スミウキゴリ、ウキゴリ

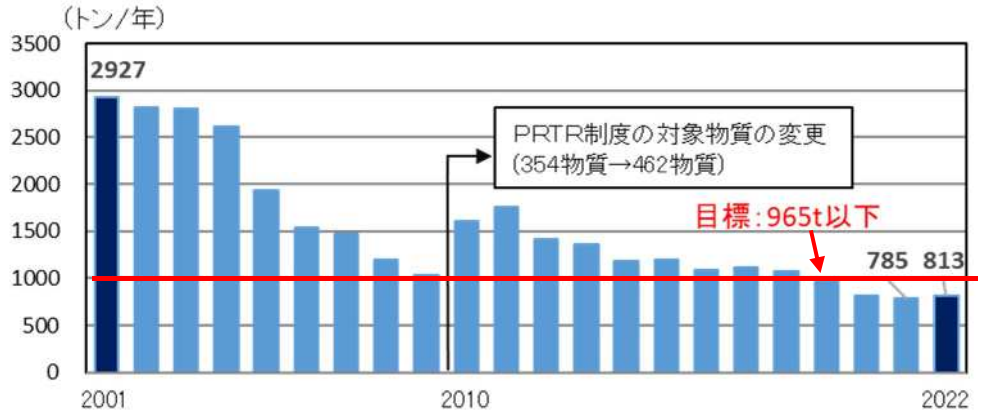
注　1 網掛けされた魚種は「きれいな水」及び「非常にきれいな水」の指標魚種
　　2 種まで同定されていない種類及び外来種、飼育品種等は評価の対象外

ウ　化学物質対策の目標

●市内の PRTR 対象事業所から排出される化学物質の総排出量の維持又は低減

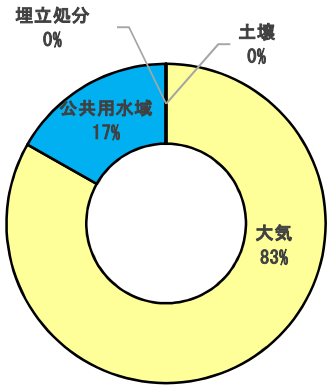
成果指標	策定時の値〔R 元年度〕	2021 年度（R3）実績	2022 年度（R4）実績	目標〔R11 年度〕
PRTR 対象事業所から排出される第一種指定化学物質の総排出量	965 t	785 t	813 t	965 t 以下

令和４（2022）年度に PRTR 対象事業所から排出された第一種指定化学物質の総排出量は 813 t で、令和 3(2021)年度と比較して、約 28 t 増加しています。



【PRTR 対象物質の総排出量の推移】

令和４（2022）年度の排出先の割合は、大気が 83%、公共用水域が 17%でした。排出量上位５物質とその主な排出先及び用途例は以下のとおりです。



【令和４年度排出量上位５物質とその主な排出先等】

順位	物質名	届出排出量（トン/年）	主な排出先	用途例
1	ノルマルーヘキサン	２０７	大気	溶剤、ガソリン成分等
2	塩化メチル	１２３	大気	合成原料、溶剤等
3	トルエン	８３	大気	接着溶剤、合成原料、ガソリン成分等
4	キシレン	６６	大気	塗料溶剤、合成原料、ガソリン成分等
5	ふっ化水素及びその水溶性塩	５０	公共用水域	金属等の表面処理剤、代替フロン等

【令和４年度排出先の割合】

エ　市民実感

●大気や水などの環境が良好であるという市民実感の向上

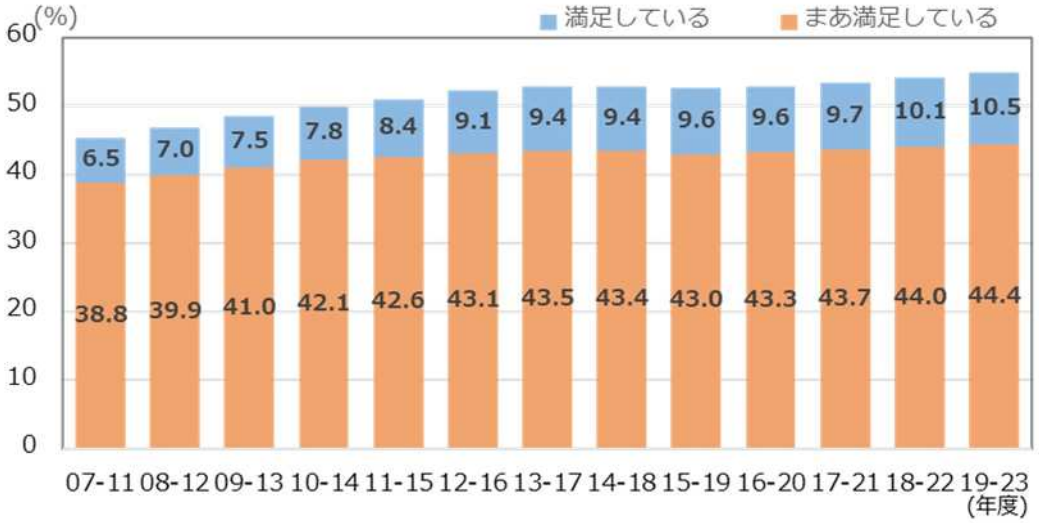
市民実感の目標

成果指標	策定時の値〔R1 年度〕	2022 年度（R4）実績	2023 年度（R5）実績	目標〔R11 年度〕
市内の空気や川、海のきれいさの満足度（かわさき市民アンケート「生活環境の満足度」）	52.9%（2016～2020 年度平均値）	54.1%（2018～2022 年度平均値）	54.9%（2019～2023 年度平均値）	55.0%（2026～2030 年度平均値）

かわさき市民アンケート「生活環境の満足度」による平成 31～令和５（2019～2023）年度の市内の空気や川、海のきれいさの満足度（過去５年間の平均値）は 54.9%が「満足している」「まあ満足している」と回答し、平成 30～令和４（2018～2022）年度と比較して、わずかに増加しました。

令和５（2023）年度調査結果（市民の空気や川、海のきれいさの満足度）

項目	回答（%）	項目	回答（%）
満足している	10.3	まあ満足している	45.4
少し不満である	23.6	不満である	11.9
わからない	2.1		



【市民の空気や川、海のきれいさの満足度の経年推移】